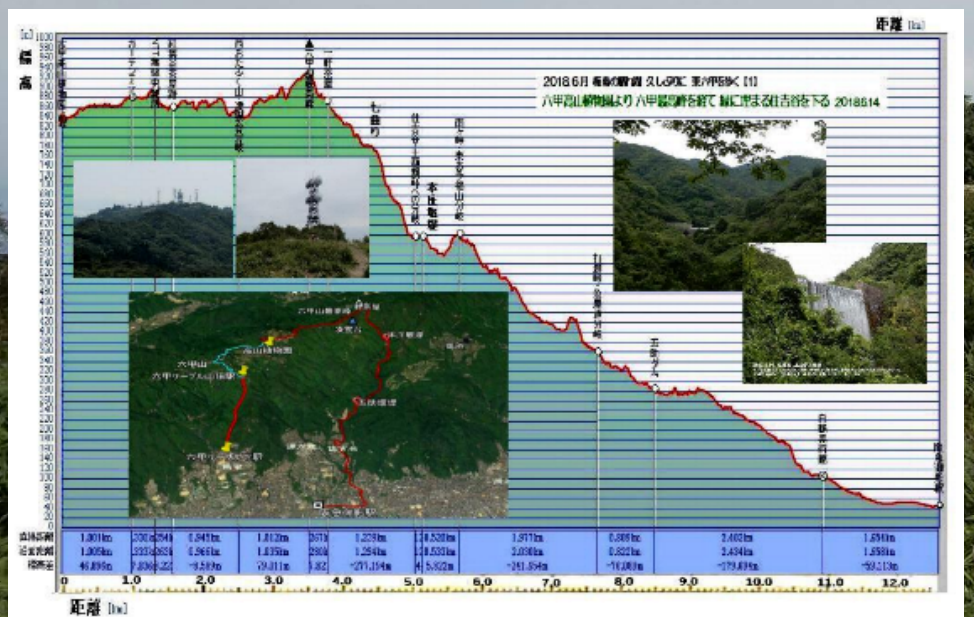
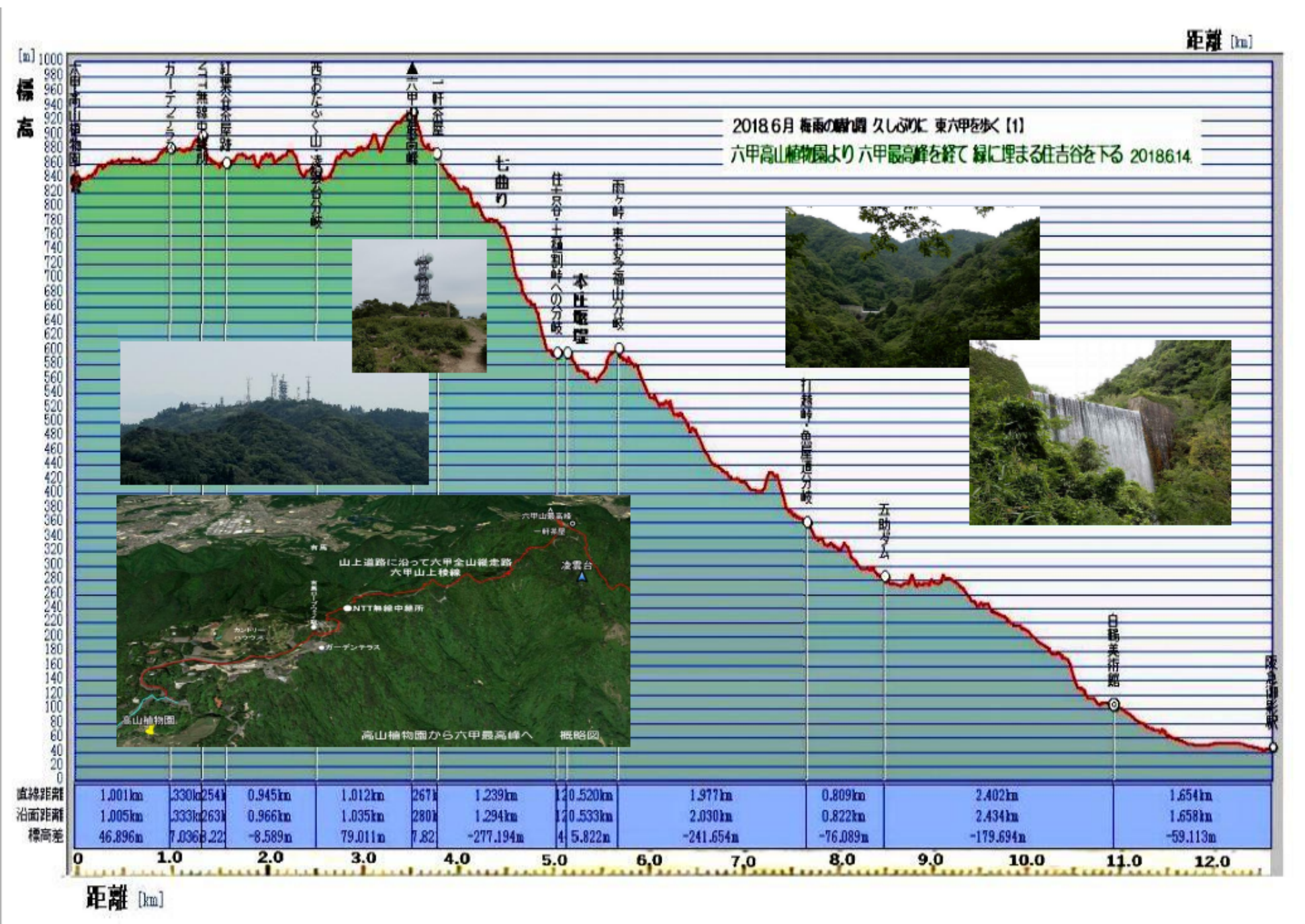
裏六甲有馬と表六甲を結ぶ六甲越 有馬道
六甲最高峰より古道「住吉道」から住吉谷を下る



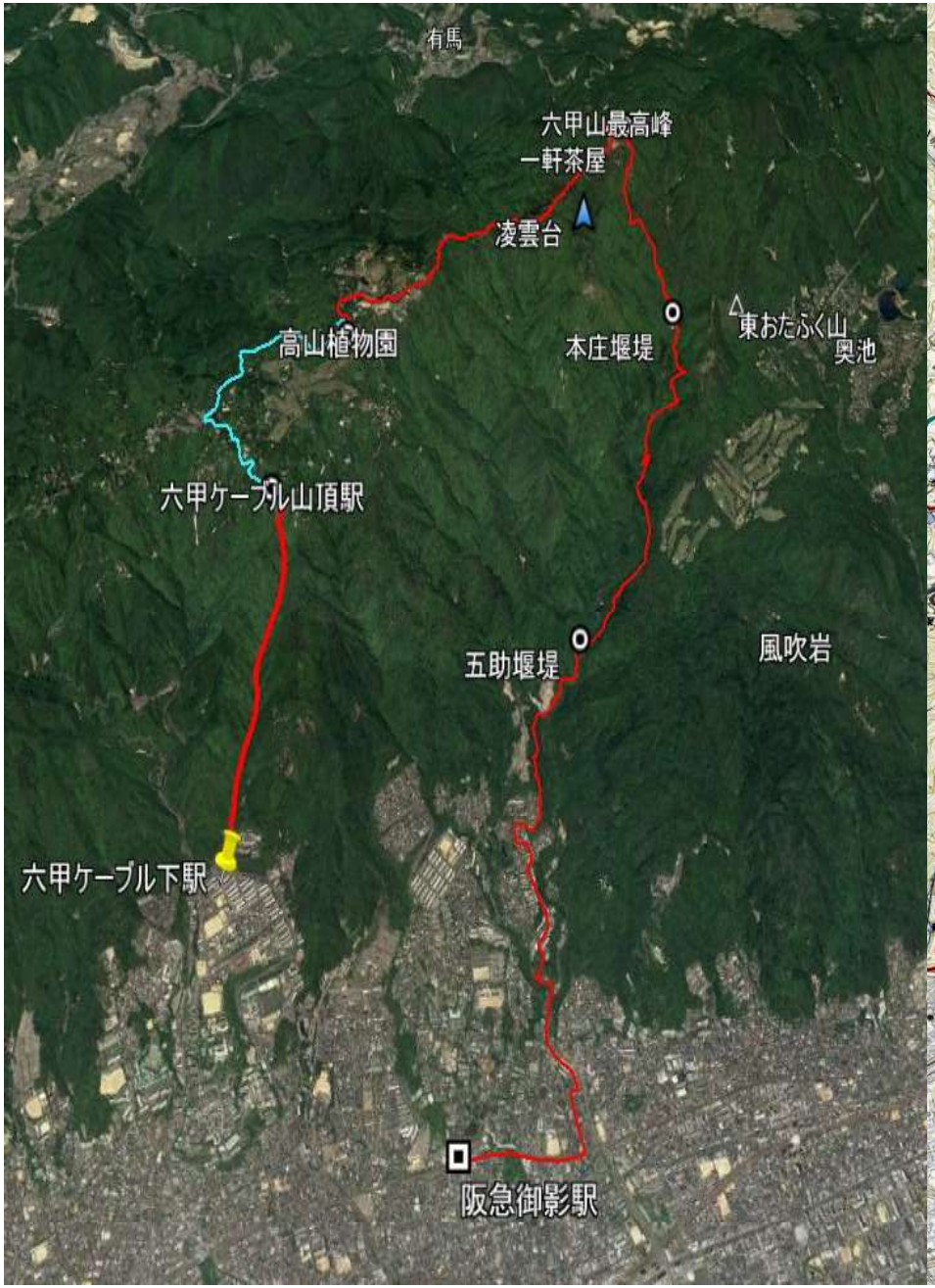
山頂標識の北側から六甲最高峰の頂上部を眺める　2018.6.14.

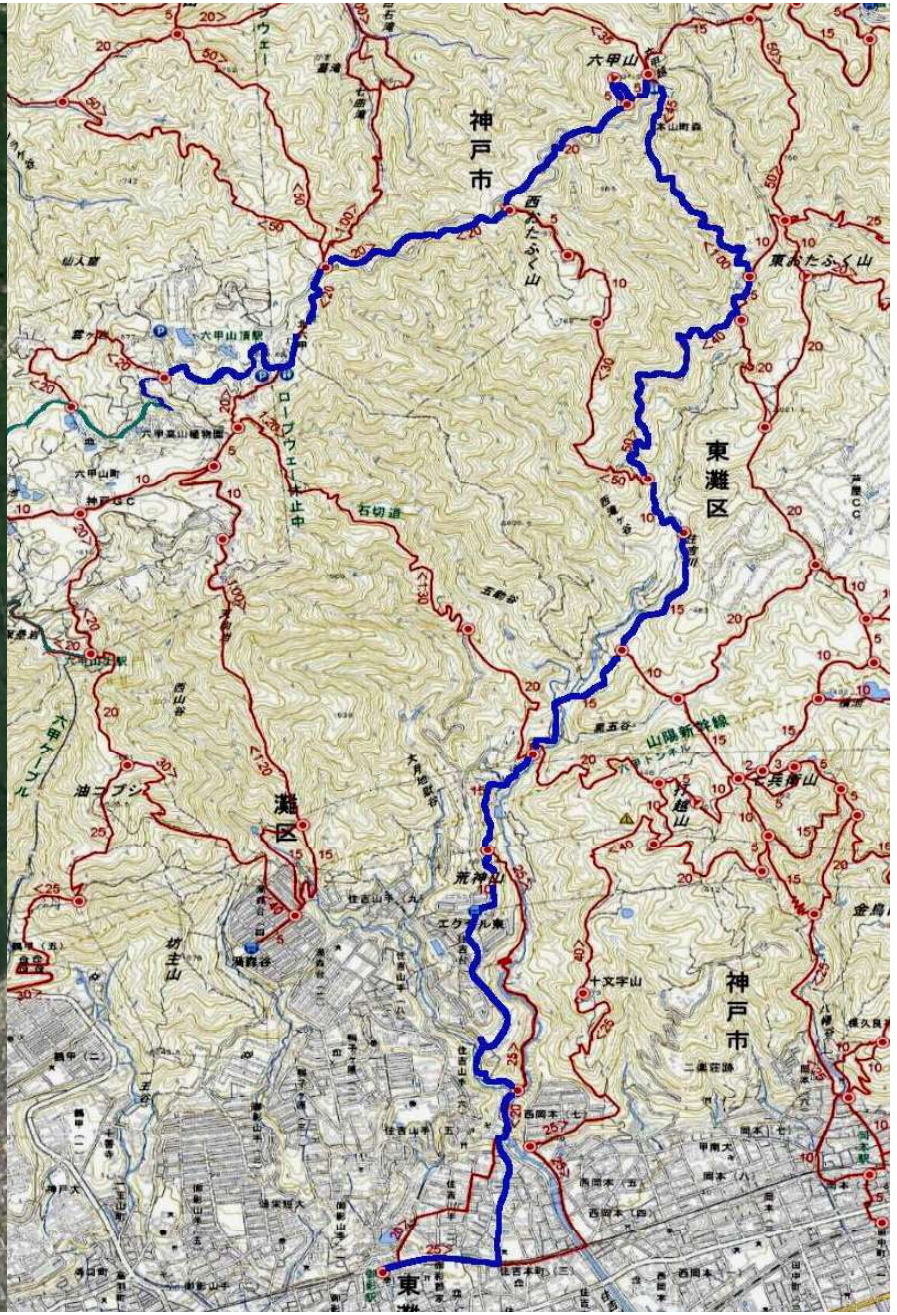
六甲高山植物園より六甲最高峰を経て　久しぶりに住吉谷を下る　2018. 6. 14.

3. 裏六甲有馬と表六甲を結ぶ六甲越の古道「住吉道」から住吉谷を下る



距離 [km]
標高 [m]
2018.6月 梅雨の晴れ間 久しぶりに 東六甲を歩く【1】
六甲高山植物園より 六甲最高峰を経て 緑に埋まる住吉谷を下る 2018.6.14.
六甲高山植物園
ガーデンテラス
NTT無線中継所
紅葉谷茶屋跡
西ぞのたぶく山・凌雲台分岐
六甲山最高峰
一軒茶屋
七曲り
住吉谷・土種割峠への分岐
本社駆埋
雨ヶ峠・東もう之福山分岐
打越峠・魚屋道分岐
五助ダム
白鶴美術館
阪急御影駅
六甲山最高峰
一軒茶屋
山上道路に沿って六甲全山縦走路
六甲山上楼線
凌雲台
NTT無線中継所
ガーデンテラス
高山植物園
高山植物園から六甲最高峰へ 概略図
直線距離 1.001km 1.330km 254k 0.945km 1.012km 267k 1.239km 120.520km 1.977km 0.809km 2.402km 1.654km
沿面距離 1.005km 1.333km 263k 0.966km 1.035km 280k 1.294km 120.533km 2.030km 0.822km 2.434km 1.658km
標高差 46.896m 7.036m 8.22 -8.589m 79.011m 7.82 -277.194m 4 5.822m -241.654m -76.089m -179.694m -59.113m
0 1.0 2.0 3.0 4.0 5.0 6.0 7.0 8.0 9.0 10.0 11.0 12.0
距離 [km]


有馬
六甲山最高峰
一軒茶屋
凌雲台
高山植物園
本庄堰堤
東おたふく山
奥池
六甲ケーブル山頂駅
五助堰堤
風吹岩
六甲ケーブル下駅
阪急御影駅


神戸市
六甲山
東おたふく山
東灘区
灘区
神戸市
六甲山頂駅
六甲高山植物園
六甲山町
神戸GC
石切道
山陽新幹線
荒神山
十文字山
二葉荘跡
西岡本
甲南大
岡本
住吉本町
御影駅

一軒茶屋
六甲山最高峰
凌雲台
本庄堰堤
奥池
宝塚
北山貯水池
甲山
高山植物園
六甲山
六甲ケーブル山頂駅
五助堰堤
芦屋
渦が森
住吉台
六甲ケーブル下駅
鶴甲
岡本
阪急御影駅

最高峰での展望を楽しんだ満足感一杯で、山頂をあとにする。
帰りは予定通り、裏六甲有馬と表六甲を結ぶ六甲越の古道「住吉道」
住吉谷を御影へ下る　　2018.6.14.　　14:00

六甲山上から。山上道路へ降りる広い道を東に降る。奥には大阪平野が眺められている。広い大阪平野の大展望はこれで見納め。
一軒茶屋に降りて、六甲越の古道「住吉道(魚屋道)」住吉谷を御影へ下る
2018.6.14.　　14:00

谷を挟んで南西側には歩いてきた六甲の山上　歩き始めた六甲山上ガーデンテラスや
有馬ロープウエイ駅の鉄塔電波塔群が見えている
六甲最高峰頂上より南西側の展望　　2018.6.14.

最高峰から南東
すぐ下の山上ドライブウェイにある一軒茶屋が見え、
その奥が今から下る住吉谷　古道　魚屋道・住吉道である。

2018.6.14.　　一軒茶屋横　山上ドライブウェイにでる

2018.6.14.　山土ドライブウェイにある一軒茶屋

2018.6.14.　　山上ドライブウェイにある一軒茶屋

建物の南側に一軒茶屋の碑があり、この南が住吉谷へ降りてゆく古道「住吉道(魚屋道)」の下り口である　　14:06

2018.6.14.　住吉谷へ下る七曲りの急坂の入口　14:09

摩耶山
阪急御影駅
六甲ケーブル下駅
渦が森
住吉台
六甲ケーブル山頂駅
高山植物園
五助堰堤
風吹岩
雨ケ峠・芦屋川分岐
凌雲台
雨ケ峠
本庄堰堤
東おたふく山
魚屋道(住吉道)
七曲り
土樋割峠・奥池分岐
六甲山最高峰
一軒茶屋
奥池
Google

2018.6.18. 住吉谷へくだる七曲りの急坂

2018.6.18. 住吉谷へくだる七曲りの急坂
山上稜線から谷筋にはいると緑につつまれ、急な下り道が続く

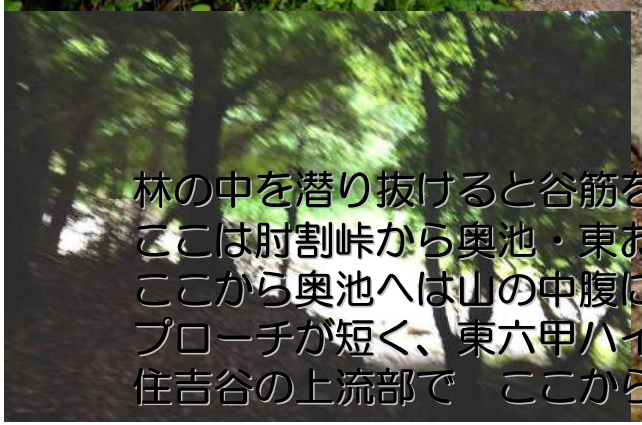
2018.6.18. 住吉谷へくだる七曲りの急坂

2018.6.18. 住吉谷へくだる七曲りの急坂
遠くに谷越しに西おたふく山の電波塔が見える
14:20

住吉道から眺める住吉谷
右手に本庄堰堤がちらっと見えるが、この左　緑の中に本庄橋跡がある　　14:32

急な山の斜面　七曲りの下り道を終え　雨ケ峠から保久良神社への標識

14:33



林の中を潜り抜けると谷筋を流れ下る住吉川の上流部に出て、反対側へ渡る。**14:35**
ここは肘割峠から奥池・東おたふく山への道との分岐点。
ここから奥池へは山の中腹に開かれた住宅地で芦有道路をバスが通っているで、　　アプローチが短く、東六甲ハイクの登山口として使う人が多い。
住吉谷の上流部で　ここから道は住吉川の谷筋左岸を東おたふく山に沿って下る

2018.6.14.　川を渡ったところが、土樋割峠から奥池・東おたふく山への道との分岐点。

ここからは東おたふく山の山腹に沿って　住吉川の左岸につけられた住吉道
左岸道を下る　谷筋道であるが、緑に包まれ、谷底などは視界が遮られみえない

本庄堰堤を眺めながら横を通過　東おたふく山の山腹沿いを降る　14:38
かつての暴れ川　住吉川　砂防工事が行われ、いくつも堰堤が作られている

六甲山は、激しい地震を伴いながら、断層のずれを繰り返した結果出来上がった山で、地下深くまでズタズタに割れ、激しく風化しています。このため、過去に幾度も大きな災害が引き起こされ、ました。
明治の頃、乱伐によって裸地であった六甲山は、治山事業等による緑化工事の結果、現在の緑の豊かな美しい山に蘇りました。
しかし、植物が育つうえで、その土壌は未熟で極めて薄く、雨が降るとすぐ流されてしまうのが現状です。
また、雨は下方に一気にしみ込んでしまう地質のため、水を蓄える力もほとんどありません。
樹木の根が生長し、災害に強く、土の層が水を蓄える力を十分持つようになるためには、何百年の歳月をさらに必要とし、今も緑の回復に全力で取り組まれている。

激しく浸食が続いている六甲山には、階段式に数多く治山ダムをつくる必要があります。
過去に何度も、激しい豪雨に耐えきれなくなった山が崩れ、土砂流となって街を襲いました。
中でも、700人を越える死者・行方不明者を出した昭和13年災害、100人を越える死者・行方不明者を出した昭和42年災害は、近年で特に大きく、街に壊滅的な被害を与えました。

住吉川の惨状（「阪神地方水害記念帳」より）

治山ダムの役割

一つは、谷から極端に砂礫が流れ出ないようにくい止めて、浸食を防止することです。不安定な山の斜面が大雨で土石流化し、災害を引き起こすのを防ぐと共に、森の土が流れ出ないようにすることにより、樹木の根の成長を促します。根がネットのようにはりめぐらされ、杭のように地面に刺さっていけば、山が崩れるのを防ぐ力がさらに発揮されるようになります。

　もう一つは、治山ダムの裏に貯まった土砂と土砂の隙間に、雨水を貯えることです。土の中の微生物や昆虫、植物等が生きていくための大切な水を、ゆっくり下流に流すことにより、渓流から水が涸れるのを防ぎ、乾燥した時期にも供給することができます。また、大雨が降っても、いっきに水が流出することを押さえて、洪水を調節する機能も持っています。　　（インターネットより）

[illegible]で起こった災害

六甲山地は、東は武庫川右岸山麓から六甲山・摩耶山・再度山などの山並みを連ね、西は鉢伏山までの、東西に約３０km、南北に約１０kmの山地で、大部分を風化した花崗岩で覆われています。

風化した花崗岩は、大雨・長雨により崩れやすく、これまで数多くの土砂災害を起こしました。

昭和１３年７月５日に発生した阪神大水害では、下流域の街を巨大な土石流が襲い多くの人命や家屋を失いました。

阪急鉄橋より下流を望む

住吉川に流れて来た巨岩

国道住吉橋付近を望む

住吉小学校第二校舎北側

国土交通省　六甲砂防事務所

住所：〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町3-13-15

電話：078-851-0535

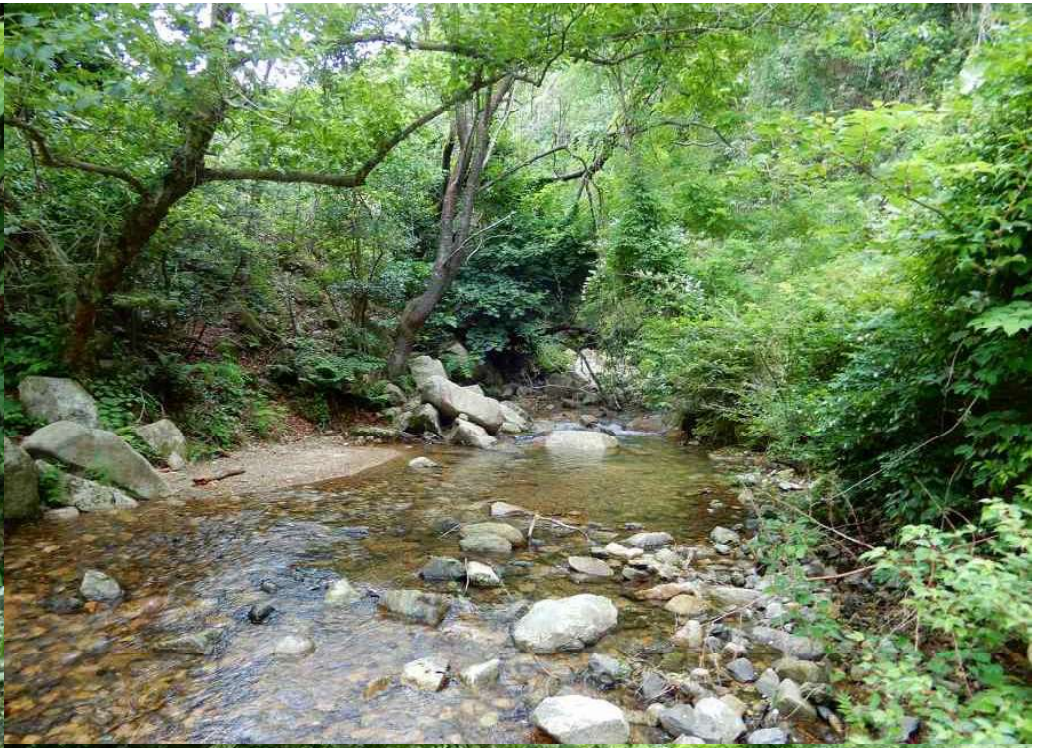
六甲の川物語 ～みんなで語り、伝えよう！住吉川物語～

六甲山地の自然や歴史・文化にまつわる街の不思議や素晴らしさを楽しく学べる学習教材「六甲の川物語」

ホームページ：http://www.rokko.kkr.mlit.go.jp/

（六甲の川物語「冊子」「サブノート」「散策マップ」がダウンロードできます）

住吉川流域図



住吉道
14:44

谷筋道を登ったり下ったり、緑のトンネルが美しい
かつては丸裸になって、荒れた住吉谷であるが、見事に緑が復活して美しい。

住吉道と雨ケ峠を芦屋川へ下る道との分岐周辺　　14:50

魚屋道はここから左へ雨ケ峠へ向かうが、住吉道はそのまま住吉川に沿って五助堰堤へ下ってゆく

緑に埋まった住吉谷中心部　　2018.6.14.　　14:52

雨ケ峠分岐周辺からは　今下ってきた住吉谷の中央にどっかと座った本庄堰堤がみえ、
後ろに六甲縦線の山並みが見えている

緑に埋まった住吉谷中心部　　2018.6.14.　　14:52

雨ケ峠分岐周辺からは　今下ってきた住吉谷の中央にどっかと座った本庄堰堤がみえ、
後ろに六甲穂線の山並みが見えている

雨ケ峠へ登る道がここにもある　14:56

五助ダム3Km・住吉6Km・御影7Km
雨が峠0.4Km

東おたふく山 雨ケ峠への分岐を過ぎ、五助ダムへのと下る住吉道　2018.6.14. 15:00

雨ケ峠への分岐を過ぎ、五助ダムへと下る住吉道　2018.6.14.

ここでも　すぐ下の谷に住吉川に作られた堰堤が見え、急流住吉川の土石流のこわさがわかる

住吉谷　雨ケ峠への分岐を過ぎ、五助ダムへと下る住吉道　2018.6.14.

住吉道　左岸道　　五助ダムの手前で　　2018.6.14.　　15:04

ここから道は東おたふく山の巻道から谷の底へと下ってゆく

住吉道　左岸道　　五助ダムへの下りで　　2018.6.14.

住吉道　左岸道　　五助ダムへの下りで　　2018.6.14.

15:10

住吉道　住吉川　左岸道　　五助ダムの手前　谷底に降りて　　2018.6.14.
少し並行して進むが、また山の巻道に

住吉道　住吉川　左岸道　　五助ダムの手前　谷底に降りて　　2018.6.14.
少し並行して進むが、また山の巻道に

谷から山襞に沿って林の中に入る　　15:21

林を抜けるとまた、住吉谷の崖沿いに、周囲はぱっと明るくなって緑に包まれる

住吉道　五助ダムの手前　打越山への分岐近く　谷の奥に六甲最高峰の塔か?
15:24

ここから、山中に突然　石畳み道が現れました　15:32

住吉道　打越山への分岐近くで　　2018.6.14.

住吉川に施された砂防工事の案内板　かつて土石流が暴れ下った住吉谷　いくつもの堰が作られ、今は緑に包まれた静かな谷になっている。　六甲の谷筋はほかも急流が駆け下る谷筋、東神戸の街を守る大規模な砂防工事と山全域にわたる植林が施され、緑豊かな静かな谷に。　子供の頃　表六甲の谷筋は　知らぬ谷筋や道に入るなとよく言われましたが、こんなに緑につつまれた谷になっているとは本当にびっくり。　でも　油断禁物だ。

住吉道　打越山への分岐近くで　山中に突然　石畳み道が現れました
古道　住吉道のなごりか？ 15:32

住吉道　住吉川左岸道　打越峠分岐　ここで　魚屋道は左へ
住吉道はそのまま谷沿いを下る　古道の雰囲気がそのまま残る石畳道　15:34

2018.6.14.　　五助ダム湖　湿地の一部
林の中の坂道を下ると小さな池の横に出て、向こうは明るい
後から考えるとこの池も五助ダムのダム湖の一部かもしれない

五助ダムのダム湖の一部？　奥に湿地を渡る木道が見えている

2017.6.14.　住吉谷　五助ダム湖　　広い湿地の中　小川が流れ、木道を渡ってゆく

2017.6.14. 住吉谷 五助ダム湖内の広い湿地 15:41

2017.6.14.　住吉谷　五助ダム湖

2017.6.14.　住吉谷　五助ダム　堰堤
ダム堰堤の向こうに先ほど歩いてきた湿地がみえて　はっと気が付く。
もう　五助ダムは土砂でほとんど埋まっているのだと

2017.6.14. 住吉谷　五助ダム堰堤

2017.6.14.　住吉谷　五助ダム堰堤

ダムの正面　とうとうと水が流れ落ち、両側を山で挟まれた湿地全体が五助ダム湖であるとわかった。　　もう数十年前訪れた記憶とは比べようもない変貌　ただただ　すごいなぁ‥‥と

Google earth 写真でみた五助ダム　　湖はもう土砂でいっぱいだ

2017.6.14.　住吉谷　五助ダムサイト　15:47

2017.6.14. 住吉川の治水・治山の案内板
住吉谷 五助ダムサイトで 15:47

六甲山で起こった災害

六甲山地は、東は武庫川右岸山麓から六甲山・摩耶山・再度山などの山並みを連ね、西は鉢伏山までの、東西に約３０km、南北に約１０kmの山地で、大部分を風化した花崗岩で覆われています。

風化した花崗岩は、大雨・長雨により崩れやすく、これまで数多くの土砂災害を起こしました。

昭和１３年７月５日に発生した阪神大水害では、下流域の街を巨大な土石流が襲い多くの人命や家屋を失いました。

阪急鉄橋より下流を望む

住吉川に流れて来た巨岩

国道住吉橋付近を望む

住吉小学校第二校舎北側

住吉川流域図

五助堰堤

阪神大水害をきっかけに六甲山地の砂防事業を国が直轄実施することになりました。この間住吉川流域では、６４基の砂防堰堤が完成しています。（平成２３年３月現在）

五助堰堤は、堰堤高３０.０m・堰堤長７８.０mで昭和２７年８月１日に着手し、昭和３２年３月３１日に六甲山地の１１９番目の堰堤として完成しました。

【工事中】川底より工事材料をよげるための足場の状況

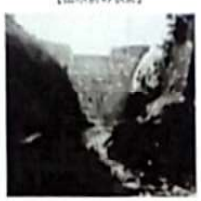
【工事中】現地の石を使って天端の工事状況

【完成】

【現在の五助堰堤】

昭和４２年７月９日の集中豪雨では、五助谷で発生した約１２万㎥の土石流を五助堰堤が受け止め下流への被害を防ぎました。

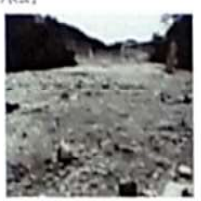
【出水前の状況】



土砂は全くたまっていない状況

【出水後の状況】

一夜にして１２万㎥の土砂がたまった直後



水が引いた状況

国土交通省　六甲砂防事務所

住所：〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町3-13-15
電話：078-851-0535

六甲の川物語 ～みんなで語り、伝えよう！住吉川物語～

六甲山地の自然や歴史・文化にまつわる街の不思議や素晴らしさを楽しく学べる学習教材「六甲の川物語」

ホームページ：http://www.rokko.kkr.mlit.go.jp/

（六甲の川物語「冊子」「サブノート」「散策マップ」がダウンロードできます）

2017.6.14.　　五助ダムサイトから眺める住吉谷
まだまだ狭い谷筋が下流へ続いている　やっぱり　すごい谷だ

2018.6.14.　住吉道　五助ダム周辺　　石切道、住吉道、打越山への３分岐

15:51

2018.6.14.　住吉川沿いを下って　阪急御影駅へ　　15:56

ここはまだ六甲の山の中腹　標高200mから300m　まだまた長い坂道が駅まで続く

2018.6.14.　住吉台への遊歩道　　ここはまだ六甲の山の中腹　標高200mから300m　　東
神戸では　六甲の山腹この辺りまで住宅地が広がっている
ここからは住吉台の団地から白鶴美術館前へ遊歩道・住宅地を抜けてよく

2018.6.14. 住吉台の住宅地を抜け、やっと白鶴美術館前に。 14:21
もう　バスに乗れるのですが、今日はきちり阪急御影まで　坂道を下る　まだ30分はかかるだろう

2018.6.14.　六甲最高峰からの視界の開けぬ狭い谷筋　急な下りが続く住吉道
長い谷筋をやっとぬけて、ほっと一息　やっぱり長いなぁ　これだけは かつての記憶通り
　あとはぶらぶらと　白鶴美術館前の坂道を阪急御影駅へ下る　16:30

梅雨の晴れ間　急に思い立ってかつてよく通った東六甲へ　六甲山上へは何度も上がるのですが、ここ10数年歩いたことがない東六甲。　興味深々で歩きました。

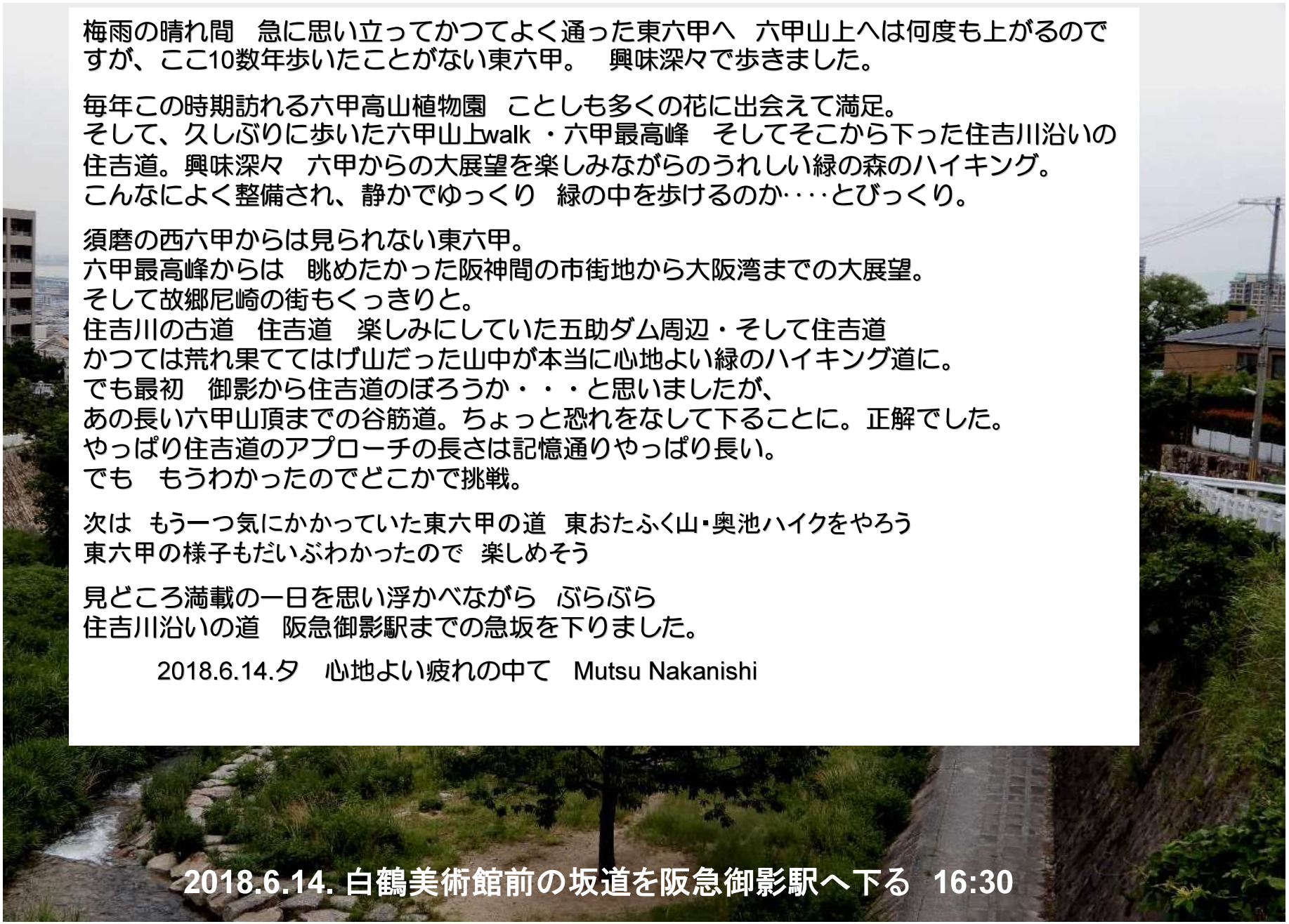
毎年この時期訪れる六甲高山植物園　ことしも多くの花に出会えて満足。
そして、久しぶりに歩いた六甲山上walk ・六甲最高峰　そしてそこから下った住吉川沿いの住吉道。興味深々　六甲からの大展望を楽しみながらのうれしい緑の森のハイキング。
こんなによく整備され、静かでゆっくり　緑の中を歩けるのか‥‥とびっくり。

須磨の西六甲からは見られない東六甲。
六甲最高峰からは　眺めたかった阪神間の市街地から大阪湾までの大展望。
そして故郷尼崎の街もくっきりと。
住吉川の古道　住吉道　楽しみにしていた五助ダム周辺・そして住吉道
かつては荒れ果ててはげ山だった山中が本当に心地よい緑のハイキング道に。
でも最初　御影から住吉道のぼろうか・・・と思いましたが、
あの長い六甲山頂までの谷筋道。ちょっと恐れをなして下ることに。正解でした。
やっぱり住吉道のアプローチの長さは記憶通りやっぱり長い。
でも　もうわかったのでどこかで挑戦。

次は　もう一つ気にかかっていた東六甲の道　東おたふく山・奥池ハイクをやろう
東六甲の様子もだいぶわかったので　楽しめそう

見どころ満載の一日を思い浮かべながら　ぶらぶら
住吉川沿いの道　阪急御影駅までの急坂を下りました。

2018.6.14.夕　心地よい疲れの中て　Mutsu Nakanishi



2018.6.14. 白鶴美術館前の坂道を阪急御影駅へ下る　16:30

緑に埋まった住吉谷中心部　　2018.6.14.　　14:52

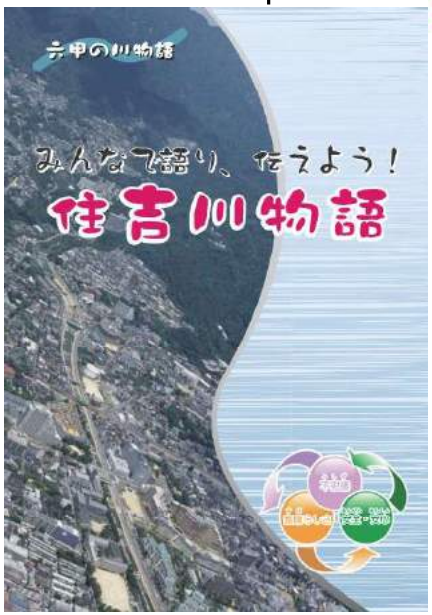
雨ケ峠分岐周辺からは　今下ってきた住吉谷の中央にどっかと座った本庄堰堤がみえ、
後ろに六甲稜線の山並みが見えている

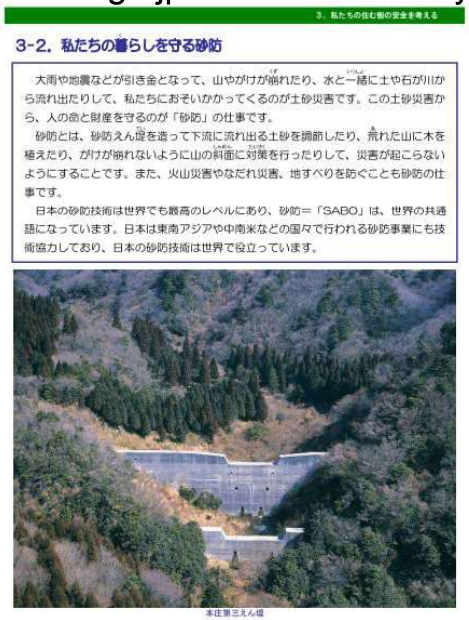
2017.6.14.　住吉谷　五助ダム堰堤

もう数十年前訪れた記憶とは比べようもない変貌　ただただ　すごいなぁ‥‥と

【参考】六甲の川物語「住吉川物語」　国土交通省　六甲砂防事務所

https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/rokko/study/sumiyoshi/sum-b.pdf





正平調

神戸市東灘区の地名、住吉から始まるその一首には、深い絶望感が漂っている。〈住よしといふも名のみか荒れ果てゝ家もあとなき河原とそなる〉◆1938（昭和13）年の阪神大水害から1年後に編まれた歌集「水禍一周年」に収められている。7月3日から5日まで、神戸・阪神間に降り注いだ未曽有の大雨は川をあふれさせ、街は濁流と土砂にのまれた◆死者、行方不明者は約700人に及ぶ。〈掘り出すなきから見れは母と子か手をとりあへるに泣かぬ人なし〉。または〈あはれさの限りにもあるか父母の行方たつねて泣叫ふ子の〉。まさに、地獄であったろう◆地元の自治体や国などでつくる「阪神大水害80年行事実行委員会」が体験談のほか、写真などの史料を募っていると、本紙に載っていた。あのとき小学生だった人たちはいま、80代の後半から90代になっている◆〈あはれ我袖さへいまたかわかぬにはや一年はめくり来にけり〉。1年どころか、80年をへても乾かぬ涙がある。めぐりくる水災忌のたびに、いとしい面影をまぶたに浮かべ、袖をぬらしている方もおられよう◆大水害には限らない。恐らくはこの国土のどこにだって、大雨によるつらく悲しい記憶は残る。伝えていきたい。未来に同じ涙が流れぬように。

2018.7.3

神戸新聞コラム「正平調」　2018.7.3より

六甲高山植物園より六甲最高峰を経て　久しぶりに住吉谷を下る　2018. 6. 14.

3. 裏六甲有馬と表六甲を結ぶ六甲越の古道「住吉道」から住吉谷を下る

裏六甲有馬と表六甲を結ぶ六甲越 有馬道
六甲最高峰より古道「住吉道」から住吉谷を下る

《 終わり 》

山頂標識の北側から六甲最高峰の頂上部を眺める　　2018.6.14.

六甲高山植物園より六甲最高峰を経て　久しぶりに住吉谷を下る　2018. 6. 14.

1. ニッコウキスゲの咲く　六甲高山植物園
2. 六甲山上を東へ歩いて　六甲山最高峰へ
3. 裏六甲有馬と表六甲を結ぶ六甲越の古道「住吉道」から住吉谷を下る

西宮浜から眺める六甲連山　全景　internetより　　自分のphotoに置換え予定
六甲山上
凌雲台
六甲山最高峰
摩耶山
再度山
六甲ケーブル下駅
東おたふく山
有馬
奥池
風吹岩
三宮
阪急御影駅
芦屋
甲山
宝塚
イランド
西宮
仁川
武庫川
甲子園球場
鳴尾浜球場
阪神電車武庫川駅

私の一番好きな六甲　武庫川から眺める東六甲の姿
小さな時から、私の慣れ親しんだ景色でもある
R171号線　武庫川 甲武橋から眺める六甲連山　google earthより

梅雨の晴れ間　入道雲がもくもくと　　梅雨明け近し
無理せず　元気に
　　2018.7.2.　by Mutsu Nakanishi

2018.7.2.　須磨アルプス　東山から眺める神戸の街